

子どもたちの 未来をはぐくむ 家庭教育

— 家庭教育支援の取組について —

子どもたちの、明るい笑顔と未来のために、社会全体で家庭教育を応援します。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



全国の保護者や地域で親子を応援するみなさんへ

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの方々へ心よりお見舞い申し上げます。

震災などをきっかけにして、全国各地において、今、改めて家族や地域の絆の大切さや、家庭と、学校、地域の協力により、社会全体で子どもを育むことの大切さが、再認識されています。

私たちは、これまで、保護者同士や、地域の子育ての先輩、学校、PTA、民生委員・児童委員など、様々な人々のつながりにより、子育ての悩みや喜びを分かち合い、学び合う、社会全体での家庭教育支援の取組を進めてまいりました。

このような日頃からの取組があったことで、地域の中に、お互いに協力して助け合う基盤ができ、緊急時にも、多くの方が協力し合ったり、地域の保護者や子どもたちのためにご尽力されていると聞きます。

こうした皆様のご尽力に心より敬意を表します。

一方で、現在、児童虐待の相談対応件数の増加、社会格差の問題、若者の引きこもりなど、家庭と子どもの育ちをめぐる問題は複雑化しています。子どもたちの健やかな成長のためには、こうした社会動向を踏まえた効果的な家庭教育支援施策が一層求められる状況にあります。

家庭教育は、すべての教育の出発点です。

子どもたちの明るい笑顔を守り、未来を育むために、皆様のより一層のご協力をお願いするとともに、文部科学省としても、引き続き家庭教育支援の取組を応援し、社会全体で子どもを育む輪が広がることを願っています。

文部科学省生涯学習政策局長
合田 隆史



家庭教育は、すべての教育の出発点

子どもたちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所
社会へ巣立っていくために大切な場所
親の笑顔が子どもの笑顔をつくります
親子が共に学び、育ち合う「家庭教育」を地域全体で応援する
そんな「やさしい社会」が、子どもたちの「未来(あした)」をはぐくんでいきます

「家庭教育をとりまく状況」

(白梅学園大学学長 汐見 稔幸)



「家庭の教育力」とはいったいどんな力でしょうか。

かつての日本の社会では、子どもたちは、家庭や地域の生活の中で、あるいは子どもたち自身の社会集団や遊びの中で、必要な規範や行動能力を身につけてきたのが実際であり、その全体を「家庭の教育力」と呼んでいました。

例えば、買い物や家事の手伝いによって、子どもたちは、自然に社会性や粘り強さ、責任感を身につけたり、外で自在に遊ぶことで、親が知らない間にも、創造力や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけることができたのです。しかしながら、現代の家庭の教育は、そうした社会的な支えを失い、孤立した個々の家庭の中で、親が個別責任において育てるものとなってしまっています。

すなわち、「家庭の教育力の低下」と言われているのは、環境の大きな変化の中で、これまで生活の中で育まれてきた力が育たなくなってきている、「家庭と地域の育ちの環境の変化」と捉えるべきでしょう。

子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている人は実に多くいます。なぜなら、家庭の教育は、「こうすればうまくいく」というようなものでなく、臨機応変に自在に考え、工夫する力であり、同じようなことで悩んでいる人と話し合い、ヒントをもらうことが、一番助けになるからです。

現代の家庭教育の振興のためには、今、家庭で子どもを育てることの大変さを担っている保護者への共感と、親としてのニーズに寄り添いながら、生活全体の発展の中で子どもの育ちを促していくことが、何よりも大切となるでしょう。

- 1 あいさつ
- 3 家庭教育をとりまく状況
- 3 ・家庭教育をめぐる主な動き
- 4 ・家庭教育支援の今日的課題
- 8 文部科学省の取組
- 8 ・家庭教育支援チーム
- 9 ・学習講座型支援
- 9 ・子どもの生活習慣づくりを推進する取組
- 10 ・学校・家庭・地域の連携による家庭教育支援
- 11 ・平成23年度全国家庭教育支援研究協議会
- 12 全国の取組紹介・応援メッセージ
- 13 ・青森県
- 15 ・宮城県 亘理町
- 17 ・山形県 村山市
- 19 ・福島県 喜多方市
- 21 ・新潟県 南魚沼市
- 23 ・岐阜県
- 25 ・大阪府 泉大津市
- 27 ・和歌山県 湯浅町
- 29 ・長崎県
- 31 被災地支援の取組
- 33 三行詩優秀作品
- 34 家庭教育応援ウェブサイトのご紹介
- 34 家庭教育支援に役立つ情報リンク集

家庭教育をとりまく状況

家庭教育をめぐる主な動き

- 教育基本法や社会教育法等の改正により、「家庭教育」や「家庭教育支援」に関する内容を充実
- 教育振興基本計画において、「家庭教育支援」を重点施策として位置づけ

教育基本法の改正(平成18年12月) 「家庭教育」に関する独立規定の新設

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。



教育振興基本計画(平成20年7月) 特に重点的に取り組むべき事項として、「家庭教育支援」を位置づけ

子育てに関する学習機会や情報の提供、相談などの家庭教育に関する総合的な取組を関係機関が連携して行えるよう促す。こうした取組の成果をすべての市町村に周知し、共有すること等を通じ、広く全国の市町村で、専門家等が連携しチームを構成して支援するなど、身近な地域におけるきめ細かな家庭教育支援の取組が実施されるよう促す。

家庭教育とは…

家庭教育は、親や、これに準ずる人が子どもに対して行う教育のことで、すべての教育の出発点であり、家庭は常に子どもの心の拠り所となるものです。乳幼児期からの親子の愛情による絆で結ばれた家族とのふれ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割を担うものです。

さらに、人生を自ら切り拓いていく上で欠くことのできない職業観、人生観、創造力、企画力といったものも家庭教育の基礎の上に培われるものです。

『「社会の宝」として子どもを育てよう! (報告)』今後の家庭教育支援の充実についての懇談会(平成14年7月)

家庭教育支援の主な今日的課題

1. すべての親を対象とする家庭教育支援

現状

- ・仕事で忙しい家庭や、悩みを抱え孤立しがちな家庭など、様々な課題を抱えた家庭の状況
- ・いじめや不登校、児童虐待の増加といった問題の複雑化、多様化



対策

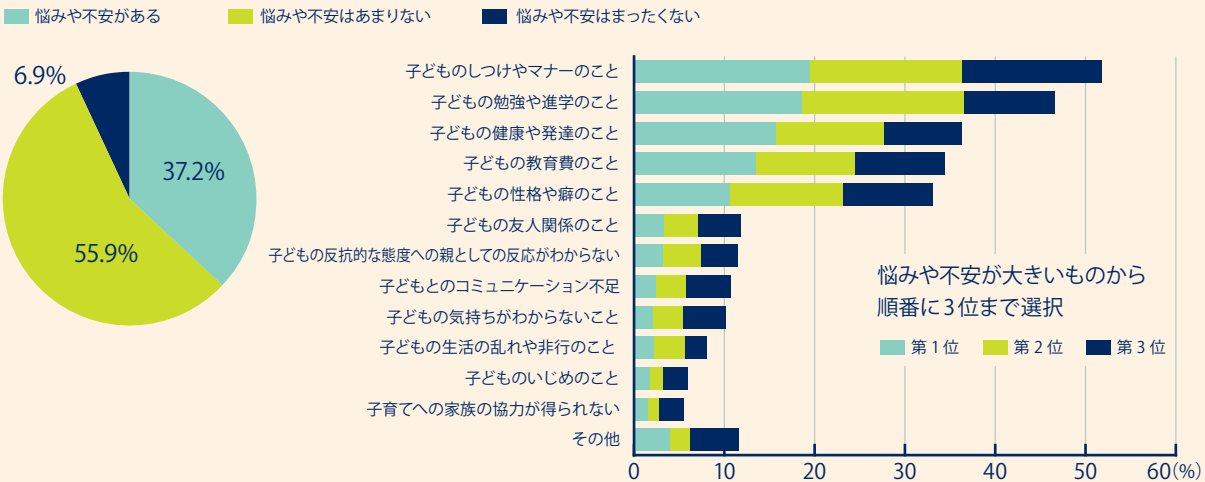
- ・それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえたすべての親への学習・相談支援

アプローチ

- ・孤立しがちな家庭など、支援が届きにくい家庭への、アウトリーチも含めた支援

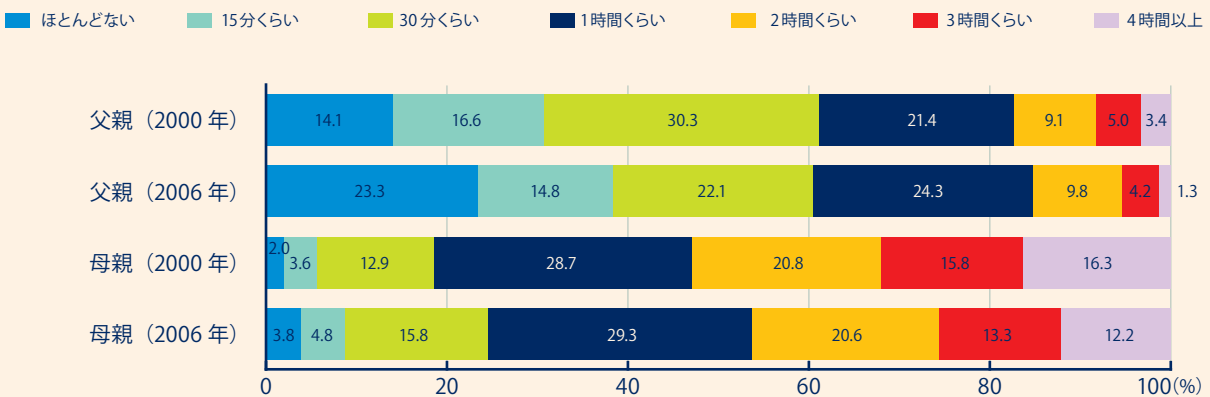
子育てについての悩みや不安

約4割の保護者が悩みや不安を抱えているようです。



平日に親が子どもと接する時間の割合

母親と子どもの接する時間が減り、父親と子どもの接する時間は「ほとんどない」という割合が増加しているようです。



出典 子育てについての悩みや不安：文部科学省委託調査「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」(平成20年度) 調査対象:0歳~18歳の子どもを持つ20歳~54歳の父母3,000人
平日に親が子どもと接する時間の割合：総務庁「青少年の生活と意識に関する基本調査(第2回)」(2000年)／内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」(2006年)

2. 社会全体による家庭教育支援

現 状

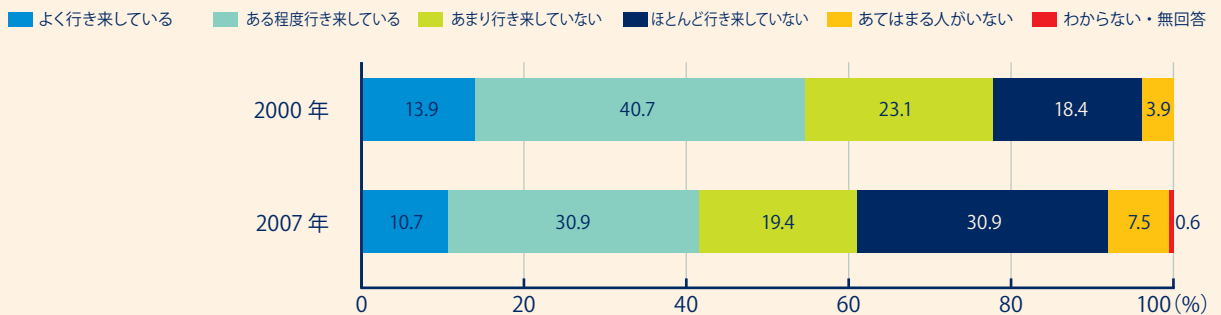
- ・地域のつながりの希薄化など、地域全体で親子の「学び」や「育ち」を支える地域力の低下

対 策

- ・地域人材の参画やつながりによる、地域の教育力の向上
- ・学校・家庭・地域の連携による教育支援の充実

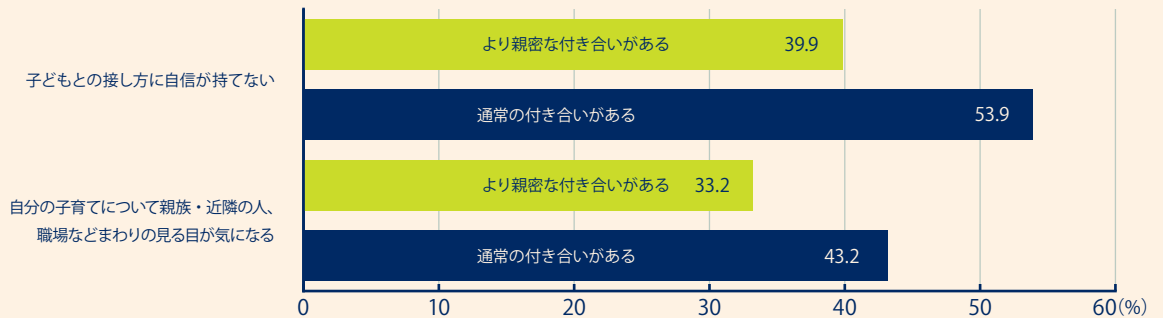
近所づきあいの程度

👉 地域のつながりが希薄化してきている傾向があるようです。



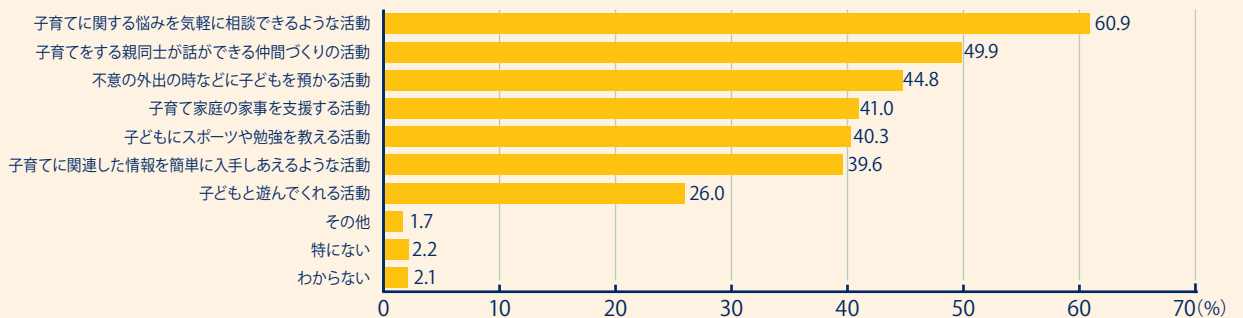
地域とのつながりと子育ての不安や悩みとの関係

👉 地域とより親密なつきあいのある人は子育てへの不安が少ないようです。



子を持つ親にとってあればいいと思う地域活動

👉 地域で気軽に相談できる活動があればいいと思っているようです。

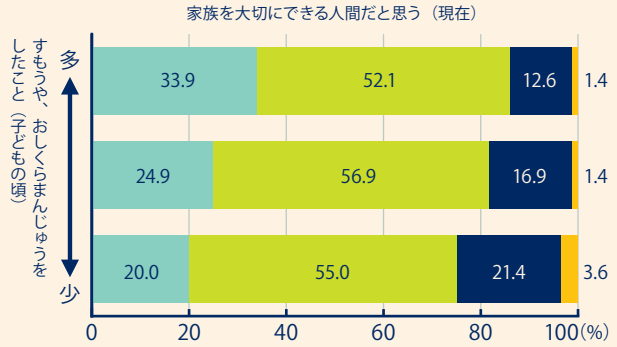
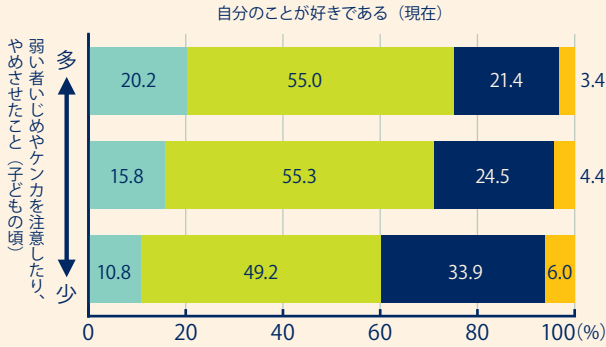


出典 近所づきあいの程度：内閣府「国民生活選好度調査」(平成19年)
 地域とのつながりと子育ての不安や悩みとの関係：厚生労働省「子育て支援策等に関する調査」(2003年)
 子を持つ親にとってあればいいと思う地域活動：内閣府「少子化対策に関する特別世論調査」(2009年2月)

子どもの頃の「友だちとの遊び」と「自尊感情」の関係

子どもの頃、友達と遊んだ経験の多い人ほど、自尊感情が高い傾向がみられます。

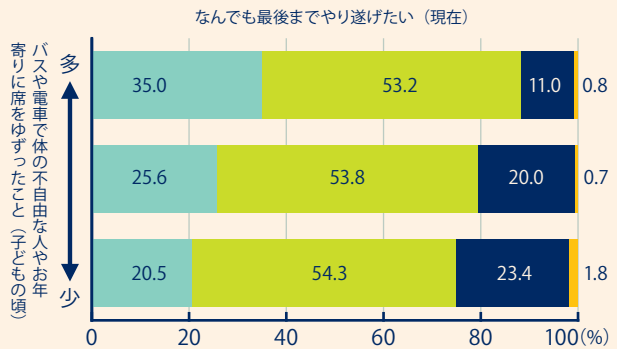
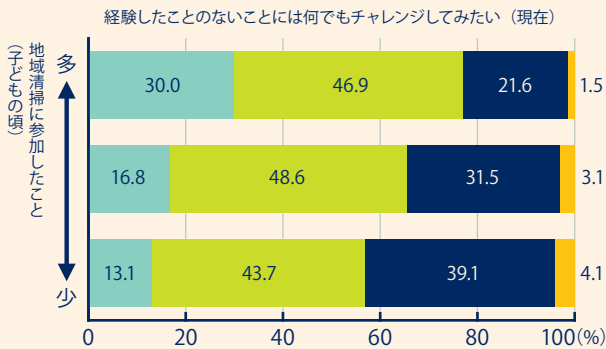
■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない



子どもの頃の「地域活動」と「意欲・関心」の関係

子どもの頃、地域活動に参加した経験の多い人ほど、意欲や関心が高い傾向がみられます。

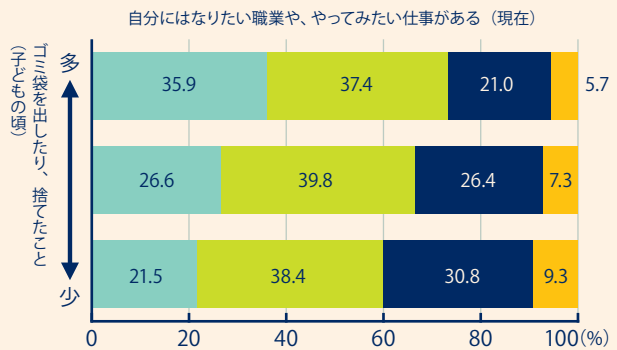
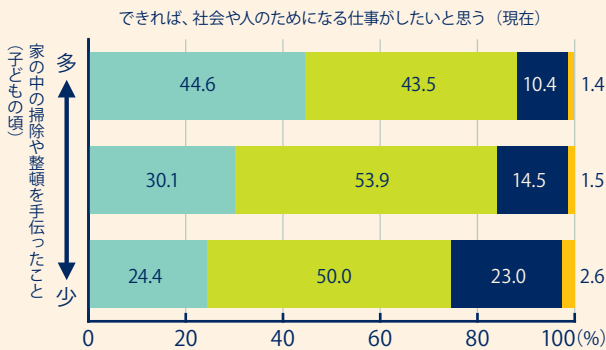
■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない



子どもの頃の「家事・お手伝い」経験と「職業意識」の関係

子どもの頃、家事や手伝いをした経験の多い人ほど、職業意識が高い傾向がみられます。

■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない



「多→少」の分類方法 「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」のそれぞれの回答に応じて得点化し、各項目の合計得点によって多→少を3群に分類
 出典 子どもの頃の「友だちとの遊び」と「自尊感情」の関係／子どもの頃の「地域活動」と「意欲・関心」の関係／子どもの頃の「家事・お手伝い」経験と「職業意識」の関係：独立行政法人国立
 青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年度)

3. 子どもたちの基本的な生活習慣の育成

現状

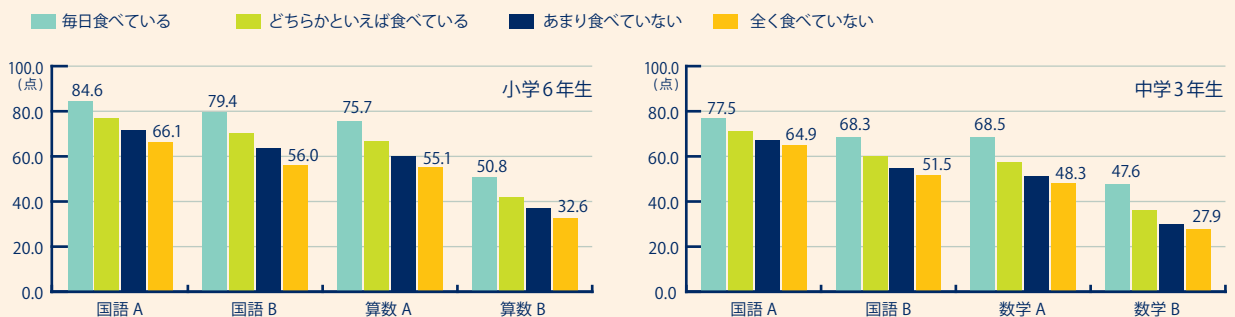
- ・社会の多様化や生活環境の変化に伴う、子どもたちの生活習慣の乱れ
- ・学習意欲や体力、気力の低下の要因との指摘

対策

- ・学校・家庭・地域・企業等の連携による「早寝早起き朝ごはん」運動の全国展開による気運醸成

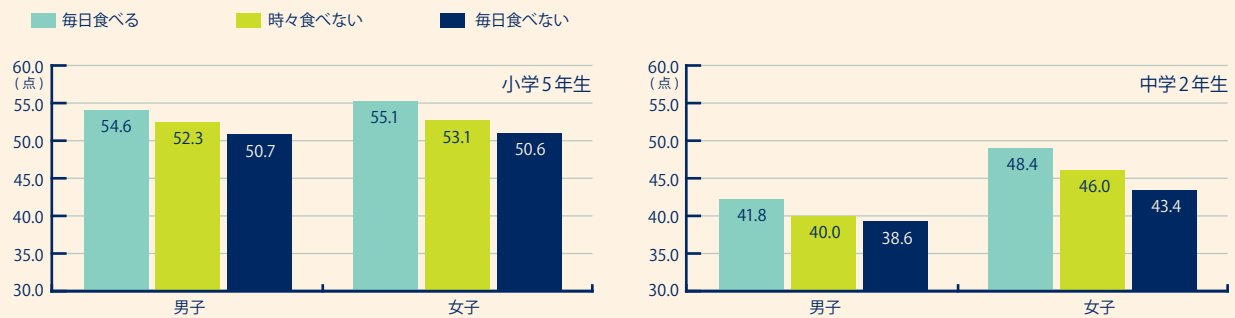
朝食の摂取と学力の関係

毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の得点が高い傾向にあります。



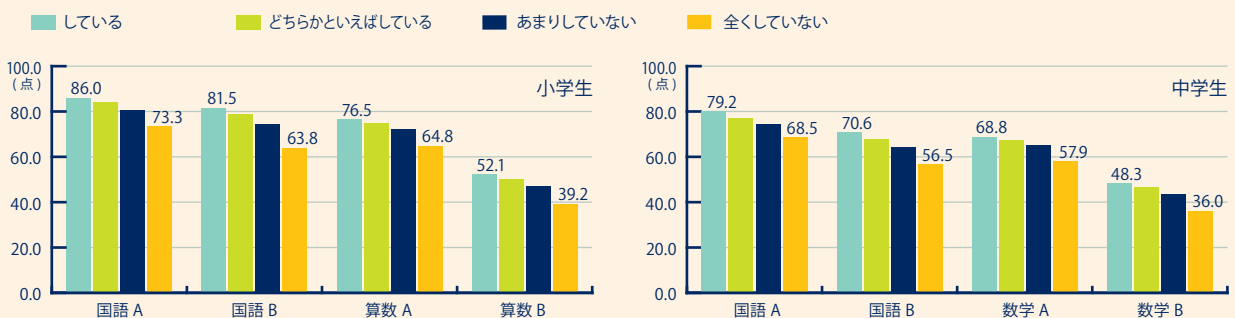
朝食の摂取と体力の関係

毎日朝食をとる児童生徒ほど、体力テストの得点が高い傾向にあります。



家庭でのコミュニケーションと学力との関係

家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒ほど学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。



出典 朝食の摂取と学力の関係：文部科学省「平成22年度全国学力・学習状況調査」(科目Aは主として「知識」に関する問題、科目Bは主として「活用」に関する問題)

朝食の摂取と体力の関係：文部科学省「平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

家庭でのコミュニケーションと学力との関係：文部科学省「平成22年度全国学力・学習状況調査」(科目Aは主として「知識」に関する問題、科目Bは主として「活用」に関する問題)